



砂糖の結晶を顕微鏡で見る子どもたち

実験や工作 児童笑顔

飯塚市でサイエンスモール

子どもたちに科学の魅力を伝える「サイエンスモール in 飯塚2019」2日目が15日、飯塚市のコミュニティセンターなどであった。科学を身近に感じてもらおうと、筑豊地区の大学や高校、企業などが42のブースを設けた「科学広場」もあり、参加者は実験や工作を楽しんだ。

九州工業大情報工学部は、べっこうあめや「LEDめがね」などを作るブースを設けた。べっこうあめ作りは、砂糖が温度によつて姿を変えることを体感してもらおうのが狙い。子どもたちは、水に溶かして熱した砂糖が黄色っぽく変わるのを見つめたり、砂糖の結晶の形を顕微鏡で確認したりした。近畿大産業理工学部のロボット工作研究会は、ロボットを操縦してお菓子をすくうゲームを準備し、子どもたちが行列を作

った。

昨年も訪れたという筑紫野市の小学4年、占部あんなさんは「どこも楽しくて、全部回りきれない」と笑顔だった。

(田中早紀)

西日本新聞朝刊2019年9月16日(月)

筑豊版22面